

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.2 2 5】

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 400 力所へ BCC 送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HP の「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS 拡散」してください。

【目次】

1. デトックス
2. MHLW の「医薬品・医療機器等安全性情報」の位置づけ
3. 健康保険 全国 2000 以上事業所で保険料納付が困難に
4. 不眠でも安易な睡眠薬の服用は危険…木下博勝医師が教えるタイプ別・年齢別対処法
5. 精神病性うつ病患者の再発に対するベンゾジアゼピンの影響
6. NCNP (国立精神神経治療センター) に対する情報開示請求 (参考添付)
7. 医療事故調査制度まもなく 5 年 遺族ら運用改善を求め要望書提出 (添付)
8. 訴訟リスクに備えよ～医賠償の限界を知る～ (添付)
9. 「薬をやめられない」で契約解除 華原朋美に“薬物乱用”“交通事故頻発”疑惑を直撃 (添付)
10. 医療現場での患者の安全考えるシンポジウム (添付)

【記事】

1. デトックス

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%87%E3%83%88%E3%83%83%E3%82%AF%E3%82%B9>

以下引用

『デトックス (detox) は、生理学的・医学的に生物の体内に溜まった有害な毒物を排出させることである。伝統的な医学では、一般に毒とは薬物やアルコールを指しており[2]、薬物中毒では解毒剤が使われ[3]、薬物依存症では薬物を身体から離脱させていく治療を解毒 (detoxification) と呼ぶ。』

ベンゾジアゼピン薬物依存の減薬も、一種のデトックスであろうと思います。

2. MHLW の「医薬品・医療機器等安全性情報」の位置づけ

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/calling-attention/safety-info/0043.html>

現在、「医薬品・医療機器等安全性情報」は医療者向けに公開されているが、本来、患者向けにも公開すべきである。そうすれば、国民に向けた医療安全の向上施策に格上げできる。近々、MHLW へその旨の要望書を郵送する。

3. 健康保険 全国 2000 以上事業所で保険料納付が困難に

<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/lastweek/45058.html>

以下引用

『新型コロナウイルスの影響で、サラリーマンなどが加入する健康保険組合の財政が悪化しています。会社の収入が減少したため、全国 2000 以上の事業所で保険料の納付が困難になり、一時的に猶予されて

2020/09/22 15:06

いることがわかりました。納付の猶予額は 167 億円余りにのぼり、健保連＝健康保険組合連合会は「リーマンショックの時以上に悪化するとみられ、今後、解散を検討する組合が出てくることも危惧される」と話しています。』

健康保険組合は 2022 年問題があり、団塊の世代が後期高齢者 75 歳に到達する 2022 年には高額医療費負担が増加し、破綻する＝解散する組合が多数出るとされている。そうすると、最終的には国民健康保険へ移行し、企業が保険料の半分を負担する制度がなくなり、国の福祉財政への負担が急増する。そうすると、国民皆保険の維持も危うくなる。

4. 不眠でも安易な睡眠薬の服用は危険…木下博勝医師が教えるタイプ別・年齢別対処法

https://biz-journal.jp/2020/09/post_179777.html

以下引用

『不眠だからすぐに睡眠薬を処方するというのではなく、診察では生活習慣をよく伺って、本当に不眠なのかどうかを見極めます。なかにはちゃんと睡眠は取れていても、不眠と思い込んでいるケースもあります』

睡眠薬＝ベンゾジアゼピンであるが、ベンゾジアゼピンは不眠を治療する効果はなく、一時的な鎮静効果しかない。逆に、連用すれば薬物依存となり、薬物耐性のため、用量を増加させるしかなく、最後は破綻して地獄の離脱症状となる。また、途中で奇異反応を発症して社会生活が崩壊する事例も多い。不眠の完治は、生活改善しかない。ベンゾジアゼピンの連用は＝人生の終局へ向かうことになる。

5. 精神病性うつ病患者の再発に対するベンゾジアゼピンの影響

<https://www.carenet.com/news/general/carenet/50830>

以下引用

『ベンゾジアゼピンの長期投与は、依存、転倒、認知障害、死亡リスクを含む有害事象が懸念され、不安以外の症状に対する有効性のエビデンスが欠如していることから、うつ病治療には推奨されていない。しかし、多くのうつ病患者において、抗うつ薬とベンゾジアゼピンの併用が行われている。』

ベンゾジアゼピン離脱に合併するうつ症状の体験者として、ベンゾジアゼピンを断薬後も 2-3 年はうつ症状が残った。ベンゾジアゼピンの影響が消えるには、つまり、寛解するには、数年かかった。

6. NCNP（国立精神神経治療センター）に対する情報開示請求（参考添付）

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/singi/jyohou/index.html

独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律により医療法の「事故等事案」の報告実績を開示請求したが、NCNP は開示を拒否している。現在、総務省の情報開示・個人情報保護審査会へ審査請求中である。

7. 医療事故調査制度まもなく 5 年 遺族ら運用改善を求め要望書提出（添付）

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200912/k10012614171000.html>

8. 訴訟リスクに備えよ～医賠償の限界を知る～（添付）

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/drk/202009/566899.html>

9. 「薬をやめられない」で契約解除 華原朋美に“薬物乱用”“交通事故頻発”疑惑を直撃（添付）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6cd421b63d573f79acfc523292902c1998a4d8>

10. 医療現場での患者の安全考えるシンポジウム（添付）

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200919/k10012627131000.html>

2020/09/22 15:06



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史